

那智山坊跡出土遺物(1)・中世編

―行者堂建設に伴う確認・立会調査より―

石 丸 彩・田 之 上 裕 子

第1章 はじめに

那智山坊跡は、東牟婁郡那智勝浦町那智山に所在し（図1、No.6）、世界遺産として登録されている「紀伊山地の霊場と参詣道」のコアゾーンである那智山青岸渡寺の北東側に広がる宿坊跡である。

今回取り上げる遺物は、令和4年度に実施された那智山青岸渡寺行者堂建設に伴う確認調査及び工事立会調査において出土した遺物である。遺物は多量に出土し、コンテナ（容量28ℓ/箱）7箱分にも及ぶ。調査地は、那智山青岸渡寺本堂の北西約50mに位置し、山の斜面の前面に石垣を築き、造成された土地と考えられる。調査当時は空閑地であったが、大正年間から第二次世界大戦前頃まで旅館が建っていたとされる。確認調査は、那智勝浦町教育委員会からの依頼を受けて県教育委員会が実施し、工事立会調査は県教育委員会が実施した。両調査ともに、当センターが支援を行った。

当該地周辺における既往の調査として、当該地の北側において、平成元年度に当センターが駐車場建設に伴う発掘調査を実施している。その結果、鎌倉時代から近世にかけての宿坊を構成する建物跡等が確認され、絵図等の検討から、廊之坊があったとされている。令和4年度実施の確認調査及び工事立会調査においても中世から近世にかけての遺構及び遺物を確認したが、

絵図には当該地に建物等が存在していた記録はなく、当時どのような人々が、どのような生活を送っていたのかは不明である。以上のことから、中世以降の当該地における人々の生活態様を検討するに先立ち、今回は中世所産の遺物について資料紹介を行う。前述のとおり、遺物は多量にあり、全てを紹介することは困難であることから、特徴的な遺物や残存率の高い遺物を抽出して紹介する。近世所産の遺物については、稿を改めて資料紹介することとしたい。

なお、本文中の第1・2・5章を石丸、第3・4章を田之上が執筆した。



図1 遺跡位置図及び調査地位置図
(S=1/10,000、和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図に一部加筆) * 4: 那智山経塚、6: 那智山坊跡

第2章 確認調査の概要

(1) 調査方法と基本層序

調査地に幅1.0～1.2m、長さ5.2～6.1mのトレンチを3箇所設定して行った。

基本層序は次の7層に大別し、枝番により細分した。細分層は各トレンチにおいて対応しない。

第1層：表土。

第2層：擁壁設置に伴う攪乱。

第3層：近代以降の整地土。

第4層：近世の整地土（第1遺構面=近世）。

第5層：中世の整地土。

第6層：中世の整地土（第2遺構面=中世）。

第7層：地山（第3遺構面=中世）。

(2) 調査結果

1 トレンチ 堆積土層は第1・3～7層である。GL⁽¹⁾-0.2m ほどの深さで第4層(第1遺構面)を確認し、面上で礎石1基を検出した。GL-0.3m ほどの深さで第6層(第2遺構面)を確認し、面上で土坑1基や礎石の可能性のある石を複数検出した。トレンチの東端で下層確認したところ、土坑と思われる遺構を検出し、その底面で第7層(地山、第3遺構面)を確認した。

2 トレンチ 堆積土層は第1・3～6層である。GL-0.5m ほどの深さで第4層(第1遺構面)を確認し、面上で礎石の可能性のある石1基やグリ石を複数検出した。GL-0.9m ほどの深さで第6層(第2遺構面)を確認し、面上で土坑や溝状遺構等を複数検出した。

3 トレンチ 堆積土層は、第1～3・6・7層である。GL-0.7m の深さで第6層(第2遺構面)を確認し、面上で礎石2基を検出した。GL-1.0m ほどの深さで第7層(地山、第3遺構面)を確認し、礎石の可能性のある石1基を検出した。

以上のとおり、全てのトレンチにおいて中世から近

世にかけての遺構を確認した。主な中世の出土遺物は、青磁碗、白磁壺、瓦器碗、土師器皿、滑石製石鍋である(表3・4)。なお、本調査の詳細は、『和歌山県埋蔵文化財調査年報－令和4年度－』を参照されたい。



写真1 確認調査 1 トレンチ 第6層上面
遺構・礎石検出状況 (西から)

第3章 工事立会調査の概要

確認調査に引き続き、第2章(1)の基本層序を基に伐根等工事立会調査を実施した。

行者堂建設にあたり、伐採後の切株の除去に必要な周囲の範囲について、第4層上面(第1遺構面)までは機械掘削・人力掘削を行い、遺構・遺物を確認しつつ根を切断して除去した。この深度で伐根ができない場合は第6層上面(第2遺構面)まで掘削し、除去した切株ごとに木No.1～21まで通し番号を付した。ま

た、1.0m 四方の行者堂基礎部分8箇所について、基礎東①～④、基礎西①～④として通し番号を付して調査した。基礎東は深さ1.5m、基礎西は深さ1.0mまで遺構面の精査、遺構・遺物の確認をしつつ調査した。

工事立会調査トレンチの掘削及び遺構検出状況は以下の通りである。なお、本調査の詳細は、『和歌山県埋蔵文化財調査年報－令和4年度－』を参照されたい。

表1 伐根工事立会調査トレンチの掘削及び遺構検出状況

層序	伐根工事立会調査トレンチ	遺構(土坑・小溝等)	石遺構・礎石等
第4層上面(第1遺構面)まで掘削	木 No. 4、5、7～14、16、18、21	木 No. 12～14	木 No. 4、5、7、9、11、13、14、16
第6層上面(第2遺構面)まで掘削	木 No. 1～3、6、8、11、15、17、19、21	なし	木 No. 1～3、6、15、17、19、21

表2 基礎工事立会調査トレンチの遺構検出状況

トレンチ	基礎工事東①	基礎工事東②	基礎工事東③	基礎工事東④
遺構	石列	礎石	石囲い状遺構	礎石

トレンチ	基礎工事西①	基礎工事西②	基礎工事西③	基礎工事西④
遺構	礎石	礎石	なし	なし



写真2 遺構完掘状況(東から)



写真3 石囲い状遺構(西から)

第4章 出土遺物(表3・4)

(1) 確認調査(図2、写真図版1)

第2層から中国製青磁陰刻花文鉢もしくは碗(①-1)、製石鍋(①-S3)、排土から瓦器碗(①-4)、第6層上面(第2遺構面)の遺構埋土から土師器皿(①-5)が出土した。

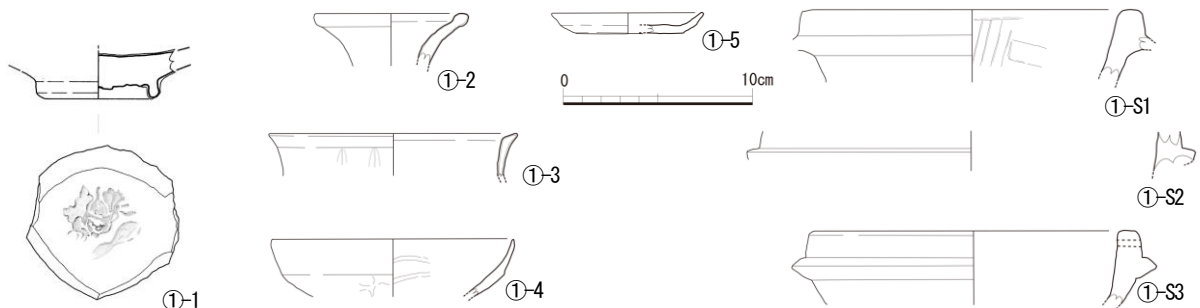


図2 確認調査出土遺物 実測図(S=1/4)

(2) 伐根等工事立会調査

第4層上面(第1遺構面)出土遺物(図3、写真図版1・2)

中国製白磁壺(②-1)、中国製青磁碗(②-2)、中国製青磁碗(②-3)、山茶碗小碗(②-4、②-5)、山茶碗碗(②-6)、滑石製石鍋(②-S4)が出土した。

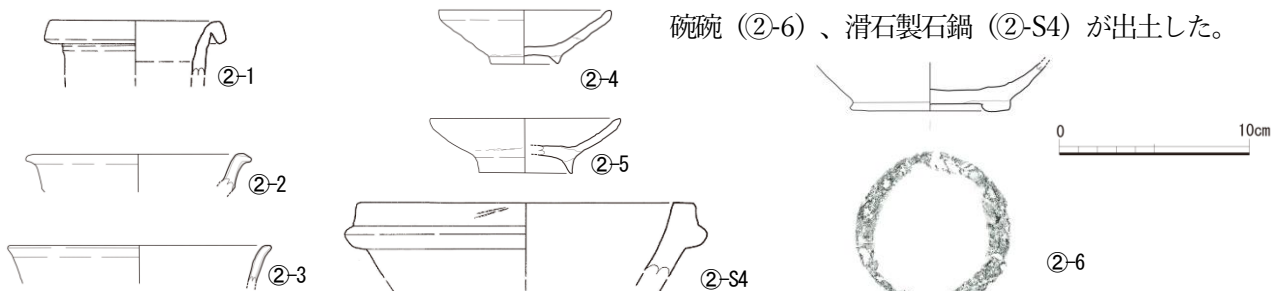


図3 工事立会調査第4層上面(第1遺構面)出土遺物 実測図(S=1/4)

第6層上面(第2遺構面)出土遺物(図4、写真図版2・3)

瓦器碗(③-1、③-4)、山茶碗小皿(③-2、③-3)、瓦した。
質土器火入れ(③-5)、土師器質土器壺(③-6)が出土

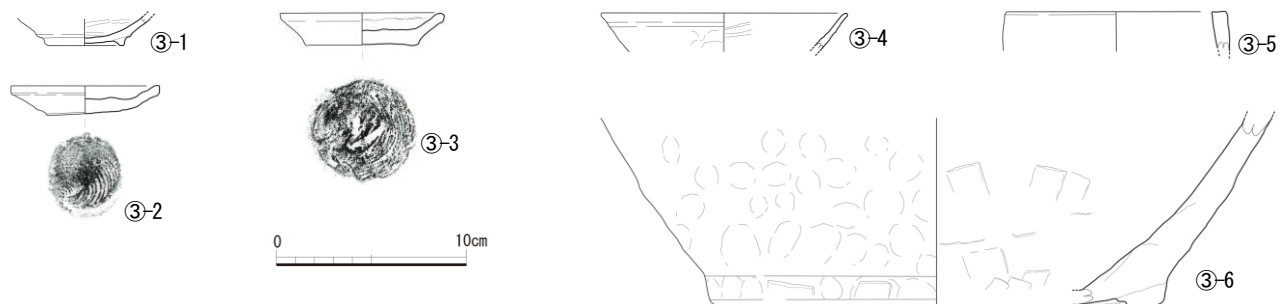


図4 工事立会調査第6層上面(第2遺構面)出土遺物 実測図(S=1/4)

第6層内の出土遺物(図5、写真図版3・4・5)

山茶碗皿(④-1、④-2)、山茶碗小皿(④-3、④-4)、
山茶碗碗(④-5～④-11)、瓦器碗(④-12～④-14)、
瓦器皿(④-15)、常滑焼捏鉢(④-16、④-17)、滑石
製石鍋(④-S5～④-S7)が出土した。

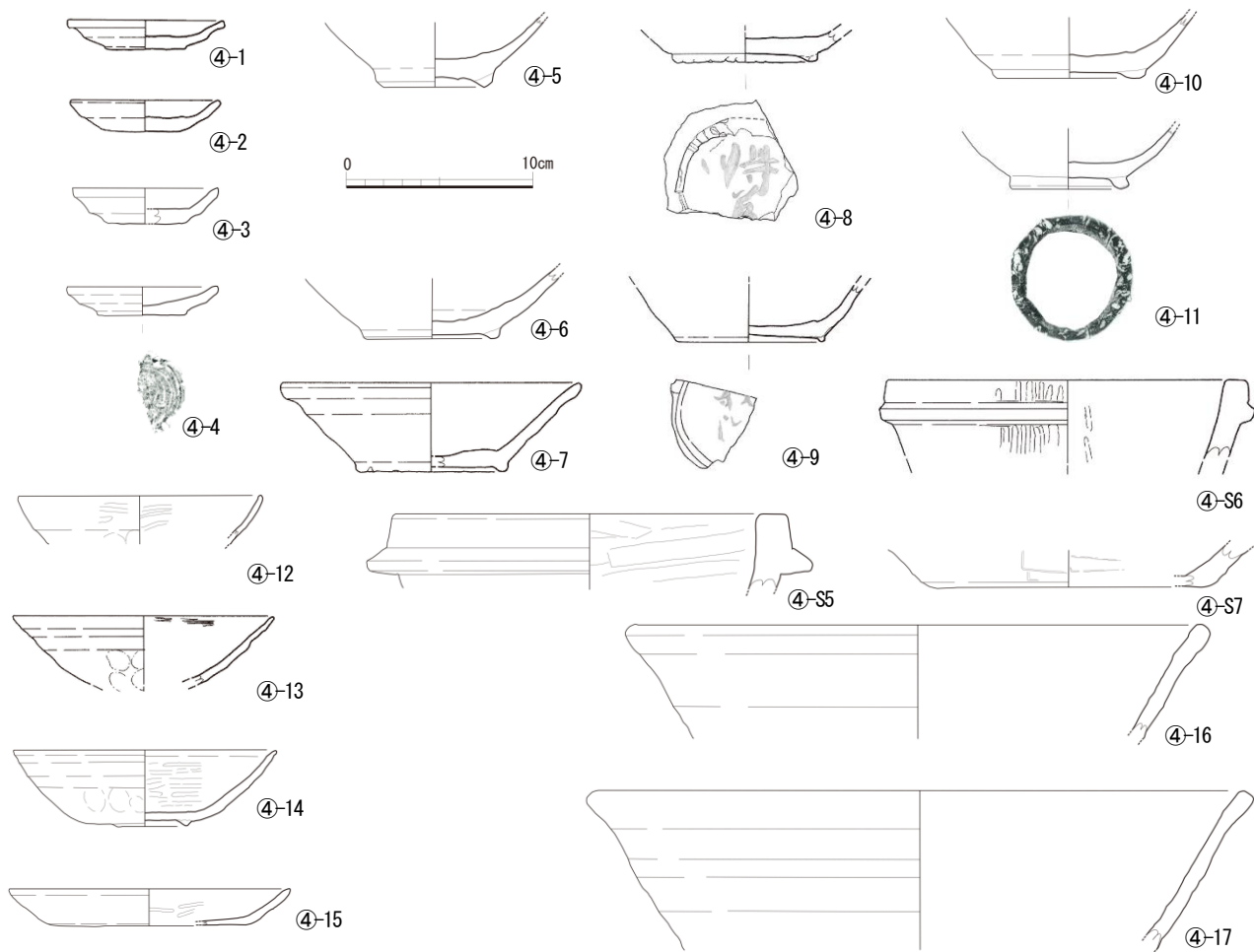


図5 工事立会調査第6層中出土遺物 実測図(S=1/4)

第5章 まとめ

遺構は土坑や溝状遺構、礎石などが検出され、中世期の当該地に建物が存在していたことが判明した。

遺物は11世紀から15世紀にかけてのものが出土し、なかでも13・14世紀のものが多数を占め、高級品とされる中国製磁器も含まれる。

畿内及びその周辺部では平安時代後期から室町時代初め頃まで、食器として瓦器碗・瓦器皿を主として用いる。残ることが少ない木器を除外すると、ほぼ100%に近い割合で使用されている。一方、東海地域ではほぼ同時期に食器として山茶碗を使用する。紀の川流域では、まず山茶碗が出土することはないが、御坊市周辺の中世遺跡では、発掘調査で山茶碗が数点程

度出土し、田辺市周辺では、10点以上出土することが多い。本調査では、山茶碗が約700点（破片含む）、瓦器が約140点（破片含む）出土している状況から、食器の主流が山茶碗であったことがうかがえる。また、備前焼など西日本の土器が出土するものの、常滑焼・瀬戸焼などの陶器、東濃産・渥美産の山茶碗が出土するなど、東海地域との交易が頻繁であったことが想像できる。

調査地からの出土遺物は、日用雑器がほとんどであるが、中には中国製磁器も含まれている。この状況から、当該地には那智山青岸渡寺本堂の近接地として相応しい建物が存在していたと考えられる。

表3 遺物観察表（土器・土製品）

法量の（ ）内は復元した大きさ 色調の内・外・断は「面」を省略している。色調は土色帖を基にしている

報告書 番号	登録 番号	地 区	遺 構 層 位	種 類 器 種	法 量 (cm)			残存率	形 態・技 法	胎 土	施 威	色 調	備 考
					口 径	高 さ	底 径						
①-1	確20	3tr	2層	青磁 鉢もしくは 碗	—	(2.6)	(5.6)	100%	見込に陰刻で草花文	精良	良好	内)オリブ灰 外)オリブ灰 断)灰白	13世紀～14世紀
①-2	確015	2tr	第4層	白磁 小型壺	(8.0)	(2.7)	—	25%	内外面に透明釉	密 1mm以下の黒色砂粒を 含む	良好	内)灰白 外)灰白 断)灰白	反転復元 14世紀～15世紀
①-3	確016	2tr	第4層跡 ^a ト	青磁 碗	(13.0)	(2.2)	—	12%	内外面に青磁釉 外面に鎮座弁文	密 0.5mm以下の砂粒をや や多量に含む	良好	内)釉：オリブ灰 外)釉：オリブ灰 断)灰黄	反転復元 14世紀～15世紀前半
①-4	確026	3tr	排土	瓦器 小皿	(12.8)	(3.0)	—	12%	内面へらミガキ 内外面とも摩耗に より調整不明瞭	密 1mm以下の黒色砂粒、 細かい雲母を少量含む	良好	内)灰 外)灰 断)灰白	反転復元 12世紀後半
①-5	確009	1fl・2tr	遺構 層位②-b (埋土)	土師器 皿	(8.0)	1.1	(5.5)	30%	底部糸切りのみナデ	密 1mm以下のチャート、 赤色酸化粒をやや多く含む	良好	内)黄褐色 外)黄褐色 断)黄褐色	反転復元 13世紀後半～14世紀 初め
②-1	立054	木No.15	第4層上面	白磁 壺	(8.8)	(2.9)	—	10%	内外面に薄く釉を施す	密	良好	内)灰 外)灰 断)灰白	反転復元 13世紀～14世紀
②-2	立039	木No.11	第4層上面	青磁 碗	(12.0)	(1.8)	—	6%	内外面に青磁釉 小片につき復元径 不確か	密 1mm以下の砂粒をごく 少量含む	良好	内)釉：オリブ灰 外)釉：オリブ灰 断)灰白	反転復元 14世紀～15世紀
②-3	立039	木No.11	第4層上面	青磁 碗	(13.8)	(2.0)	—	6%	内外面に青磁釉 小片につき復元径 不確か	密 1mm以下の黒色砂粒を やや多量に含む	良好	内)緑灰 外)緑灰 断)灰白	反転復元 14世紀～15世紀
②-4	立039	木No.11	第4層上面	山茶碗 小碗	(9.0)	(2.8)	(3.4)	25%	底部回転糸切り 口縁部から内面に 自然釉付着	密 1～2mmの長石、石英、 チャートをやや多く含む	良好	内)灰 (釉)灰白 外)灰 断)にふい揚	反転復元 12世紀
②-5	立039	木No.11	第4層上面	山茶碗 小碗	(10.0)	2.8	(5.0)	16%	内面に自然釉	密 1mm以下の石英、 チャートをやや多く含む	良好	内)釉灰 外)黄灰 断)灰黄	反転復元 12世紀
②-6	立019	木No.19	第4層上面	山茶碗 碗	—	(2.3)	(6.2)	底部100%	内面に重ね焼の痕跡あり 高台臺付 に勝圧痕・小石痕	やや密 1mm大の長石、 チャートを中量含む	良好	内)にふい黄褐色 外)にふい黄褐色 断)灰白	一番反転復元 13世紀
③-1	立041	木No.11	第6層上面	瓦器 碗	—	(1.4)	(3.7)	50%	内面へらミガキ 内外面とも摩耗に より調整不明瞭	密 1mm以下の長石を少量 含む	良好	内)灰 外)灰 断)灰白	反転復元 12世紀後半
③-2	立014	木No.4北側	第6層上面	山茶碗 小皿	7.8	1.6	3.8	60%	底部回転糸切り	密 1mmの長石、チャート、 赤色酸化粒を少量含む	良好	内)灰白 外)灰白 断)灰	13世紀 東濃産
③-3	立011	木No.4	第6層上面	山茶碗 小皿	8.5	1.7	5.8	60%	底部回転糸切り 口縁部外面に自然 釉	密 1～2mmの石英、細かい 雲母を含む	良好	内)灰白 外)灰白 断)灰黄	反転復元 13世紀半ば
③-4	立029	木No.7	第6層上面	瓦器 碗	(13.0)	(2.0)	—	12%	内面へらミガキ 外面ユビオサエ 内外面とも摩耗により調整不明瞭	密 1mm以下の黒色砂粒を 中量含む	良好	内)灰 外)灰 断)灰白	反転復元 13世紀半ば
③-5	立012	木No.4	第6層上面	瓦質土器 火入れ	(11.6)	(2.1)	—	16%	内面、断面に焦げ付着	密 1mm以下の長石、石 英、細かい雲母を少量含む	良好	内)灰白 外)灰 断)にふい黄 褐色・黒褐色	反転復元
③-6	立020	木No.5	第6層上面	土師質土器 壺	—	(10.0)	(20.4)	16%	貼付高台のユビオサエ・板ナデが施 い。内面に焦げ付着	やや密 1～2mmの石英、1 ～4mmの長石、片岩をや や多く含む	良好	内)灰褐 外)褐 断)褐	反転復元
④-1	立070	木No.20	第6層	山茶碗 皿	(8.1)	1.6	4.2	30%	底部回転糸切り 内面に摩耗(使用 痕?)	密 1mm以下の石英、長石 を微量に含む	良好	内)オリブ灰 外)オリブ灰 断)灰白	反転復元 瀬戸産?
④-2	立071	木No.20	第6層	山茶碗 皿	(7.9)	1.7	4.0	80%	底部時計回りの回転糸切り 外面 回転ナデ	密 1mm以下の石英を微量 に含む	やや軟質	内)灰白 外)灰 断)灰白	一番反転復元 13世紀
④-3	立071	木No.20	第6層	山茶碗 小皿	(7.8)	(1.9)	(3.8)	32%	底部回転糸切りのみナデ 断面に火 ぶくれ 内外面にうすく焦げ付着	密 1～2mmの長石、チャート を中量含む	良好	内)灰白 外)灰白 断)灰白	反転復元 13世紀 尾張産
④-4	立071	木No.20	第6層	山茶碗 小皿	(8.0)	1.5	(4.9)	50%	底部回転糸切り	密 1mm以下の長石、 チャートをやや多く含む	良好	内)灰白 外)灰白 断)灰白	反転復元 12世紀
④-5	立071	木No.20	第6層	山茶碗 碗	—	(3.5)	(5.2)	50%	内外面に重ね焼の痕跡あり、自然釉 が著しく付着	密 1mm以下の長石、 チャートを少量含む	良好	内)灰黄 釉：灰白 外)灰黄 断)にふい黄褐色	反転復元 11世紀 高台内に墨痕あり
④-6	立071	木No.20	第6層	山茶碗 碗	—	(3.7)	(6.6)	底部100%	底部糸切りのみナデ 内面に重ね焼 の痕跡あり	密 1mm大の石英、チャート、 黒色砂粒を中量含む	良好	内)灰白 外)灰白 断)灰白	反転復元 11世紀
④-7	立070	木No.20	第6層	山茶碗 碗	(15.7)	(4.8)	(7.6)	40%	底部回転糸切り 口縁部に自然釉付 着 貼付高台に勝圧痕あり	やや粗 3mm以下のチャート、 石英を少量含む	良好	内)灰白 外)灰白 断)灰白	反転復元 14世紀
④-8	立071	木No.20	第6層	山茶碗 碗	—	(1.7)	(7.3)	底部30%	貼付高台に勝圧痕あり	密 0.5mm以下の砂粒を少 量含む	良好	内)灰白 外)灰白 断)灰白	反転復元 渥美産 13世紀 高台内に墨 痕(得尊)

⑨-9	立071	木No.20	第6層	山茶碗 碗	—	(3.1)	(7.6)	底部～高 台25%	底部回転系切り 貼付高台	密 1mm以下の石英を微量 に含む	良好	内)灰白 外)灰白 断)灰白	反転復元 遼東産 13世紀 高台内に墨痕あり
⑨-10	立071	木No.20	第6層	山茶碗 碗	—	(3.2)	(7.5)	底部50%	底部糸切りのちナデ	密 1mm以下の石英、 チャートを含む	良好	内)灰白 外)灰白 断)灰黄	反転復元 11世紀
⑨-11	立021	木No.5	第6層	山茶碗 碗	—	(3.1)	5.8	30%	高台畳付に粉圧痕	密 1mm以下の石英を少量 含む	良好	内)灰白 外)灰白 断)灰白	一部反転復元 14世紀初め 東瀛 産？
⑨-12	立021	木No.19	第6層	瓦器 碗	(13.0)	(1.5)	—	12%	内外面へうミガキ 内外面とも摩耗 により調整不明瞭 小片につき復元 確不確か	密 1mm大の長石を含む	良好	内)灰 外)黄灰 断)灰白	反転復元 13世紀前半
⑨-13	立070	木No.20	第6層	瓦器 碗	(14.0)	(3.7)	—	15%	内面へうミガキ 外面ユビオサエ 内面摩耗により調整不明瞭	密	良好	内)暗灰 外)暗灰 断)灰褐	反転復元 13世紀
⑨-14	立071	木No.20	第6層	瓦器 碗	(14.0)	4.0	3.6	60%	内面へうミガキ、貼付高台がやや強 内外面とも摩耗により調整不明瞭	密 1mm以下の長石、 チャートを少量含む	良好	内)灰 外)黄灰 断)黄灰	一部反転復元 12世紀後半
⑨-15	立030	木No.7	第6層中	瓦器 皿	(15.0)	1.9	(9.5)	8%	内面へうミガキ 内外面とも摩耗に より調整不明瞭	密 1mm以下の長石、石 英、チャートをやや多く含 む	良好	内)灰白 黄灰 外)灰黄 黄灰 断)灰白	反転復元 13世紀
⑨-16	立070	木No.20	第6層	常滑焼 提鉢	(30.0)	(8.5)	—	6%	外面に煤付毒、一部赤変	やや粗 1～3mmの長石、 チャート、1～3mmの石英を やや多く含む	良好	内)灰白 外)灰黄 断)灰白	反転復元 13世紀半ば
⑨-17	立073	木No.20	第6層	常滑焼 提鉢	(35.5)	(8.3)	—	13%	口縁部外面に自然釉付毒	やや密 1～2mmの長石、砂 岩をやや多く含む	良好	内)灰白 外)灰白 断)灰黄	反転復元 13世紀半ば

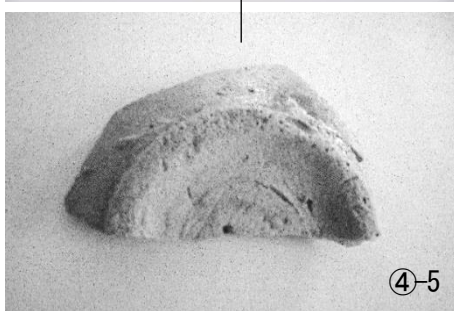
表4 遺物観察表(石製品)

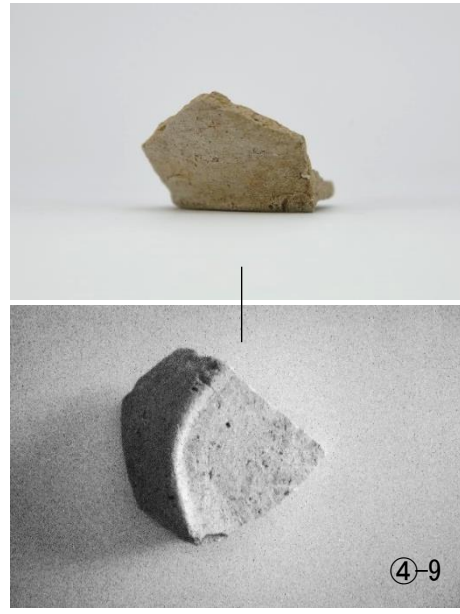
報告書 番号	登録 番号	地 区	遺 構 層 位	種 類 器 種	法 量(cm)				石 材	重 量(g)	残存率	特 徴	色 調	備 考
					口 径	高 さ	口 径	底 径						
①-S1	確014	2丁ノ	第3層	石鍋	(17.8)	(3.8)	—	—	滑石	52	10%	外面に煤付毒	表)灰 オリーブ黒 断)黄灰	13世紀～14世紀 羽釜型
①-S2	確014	2丁ノ	第3層	石鍋	—	(1.5)	(23.9)	—	滑石	59	残部14%		表)にぶい黄褐 断)にぶい黄褐	13世紀～14世紀 羽釜型
①-S3	確016	2丁ノ	第4層	石鍋	(17.0)	(3.9)	(19.2)	—	滑石	42	6%	径4mmの奥取手穴	表)褐灰 断)黄灰	13世紀～14世紀 羽釜型
①-S4	立056	木No.15	第4層上面	石鍋	(15.4)	(3.9)	(18.8)	—	滑石	85	10%	残部より外面に厚く煤付毒	表)オリーブ灰 断)灰	反転復元 14世紀 羽釜型
①-S5	立071	木No.20	第6層	石鍋	(20.8)	(3.9)	(23.8)	—	滑石	252	25%		表)灰黄 灰褐 断)灰褐	12世紀初め～13世紀 羽釜型
①-S6	立088	釜西西②	第6層中	石鍋	(19.0)	(4.4)	(20.0)	—	滑石	51	5%	径5mmの奥取手穴もしくは湯石に転用し た際の穿孔か	表)黄灰 灰白 断)灰	13世紀～14世紀 羽釜型
①-S7	立021	木No.5	第6層	石鍋	—	(2.0)	—	(14.5)	滑石	62	13%		表)淡黄 断)黄灰	12世紀初め



写真図版1









【 注 】

(1)調査当時の地盤面（グラントレベル）を指す。

【 参考引用文献 】

那智勝浦町・那智勝浦町史編さん委員会 1980『那智勝浦町史 上巻』

和歌山県教育委員会 1965『那智山坊跡緊急調査概報』

和歌山県教育委員会 1971『那智山青岸渡寺三重塔建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』

和歌山県教育委員会・(公財)和歌山県文化財センター2012『和歌山県緊急雇用創出事業臨時特例基金事業に係る埋蔵文化財関連資料整理概報－和歌山県内 6 遺跡の概要報告書－』

和歌山県教育委員会 2023『和歌山県埋蔵文化財調査年報－令和4年度－』

和歌山県立博物館 2009『熊野三山の至宝－熊野信仰の祈りのかたち－』